

◆藤原京の範囲

藤原京の京城については、1968年岸俊男によって、古代の幹線道に囲まれた東西2.1km、南北3.2kmの範囲に、東西8坊、南北12条分の条坊が復原され、それが定説となった。奈良国立文化財研究所では、1969年以来その成果を受け、藤原京跡の発掘調査を担当してきた。しかし周知のように、その後の調査で、岸説の範囲外からも条坊遺構が相次い

で発見され、京城はもっと広がるという、いわゆる「大藤原京」案各種が提出された。そして1996年に至り、大極殿から東西に2.6kmも離れた橿原市土橋遺跡や桜井市上之庄遺跡から、十坊大路とみられる条坊遺構が発掘された。その上、これを東西の京極とみなす所見もあって、宮を中心に置く十里四方の京城案が、現実味を帯びて急浮上してきた。

この京城は、『周礼』考工記に記され

た都の形に類似するが、藤原京がそれを模倣したものと断ずるには、なお検証が必要だろう。また併せて、この広大な都がいつ計画され施工されたのか、京城が十坊以上に広がる可能性はないのか、京城が時期によって伸縮しなかったのかなど、解明すべき課題も多い。その解決には、更なる発掘調査が不可欠で、当研究所では、岸説の範囲を越えて調査対象とするべく、検討を重ねているところである。（黒崎 直）

